



広報

イキシア

2018年9月

78号

イキシアには「団結して事にあたる」という花言葉があります。やっと思心を集めるようになったこの精神保健の分野に理想の福祉を実現する為にあなたの知恵と力をお貸しください。

私のリフレッシュ休暇

理事長 寺田 一郎

前号でリフレッシュ休暇の話を書き、「私自身もリフレッシュ休暇の対象です。今年度こそ取得しようと思つています」と宣言しました。

それがとうとう実現しました。十一日間の「イギリス一人旅」。

六月二十六日、羽田空港では、初めての休暇にひとりで感激していました。

十二時間かけてヒースロー空港に着くと現地時間は二十六月午後三時二十分。ホテルへ着いたのが午後七時。ひと息入れてホテル周辺の散策にでました。旅の始まりです。ここからはグーグルマップが頼りです。そのためにガラ携からスマホに変えました。

イギリス初日の夕食にフィッシュ&チップスは外せません。ビールと合わせて十八ポンドの夕食はボリュウムあり過ぎでポテトはかなり残して店を出たのが九時半、でもまだ明るい。こうしてイギリス第一日目が終わりました。

三日間かけてバッキンガム宮殿の衛兵交代式やテムズ川クルーズ、蠟人形館などひと通り

のロンドン観光を済ませてから、コッツウォルズを目指しました。鉄道とバスを乗り継いでコッツウォルズの小さな町チップینگカムデンに到着。ホテルは十四世紀の建築という。

ここを拠点に町々を回り七月一日からいよいよ旅のハイライト、ナローボートクルージングです。シェイクスピア所縁のストラッドフォードで乗船です。



ナローボートの旅

ガイドは日本人女性とイギリス人のご夫婦。そのご夫婦が所有するボートをお二人にガイドしてもらって一人でチャーターしました。このご夫婦にネットでお会いしなかつたら今回のイギリス旅行は決行しなかつたと思います。

産業革命当時の運河を現代では観光用として活用しています。その総延長は七千キロともいわれています。ボートの規格は水路に合わせて幅二メートル、長さ二十メートル以内。三泊四日の船旅です。昔は馬が引いたというボート

トです。今はエンジン付きに変わりましたが運河に沿った小径(馬の路)を散歩する人たちにも追い抜かれてしまうほどゆつくり進みます。

両岸の景色は羊が草を食む牧場や小麦畑がずっと続きます。水位の違いはロック(閘門)で乗り越えます。これが意外と重労働。

やはり操船が一番楽しかったということになります。いたるところに水路に架かる橋では船幅いっぱい狭さになります。ここで船体を擦らずに通過できるかどうか腕の見せどころ。グッドドライブ!と叫ばれて結構長い時間舵を握っていました。

朝食とお昼はボートで夫人の手料理。イングリッシュブレックファーストはなかなかでした。夜は三人で停泊地近くのパブに出かけます。

四日かけてバッキンガムに到着。かつては治安が悪かつたという倉庫街も今ではすっかりウオーターフロント。おしゃやかなカフェが並んでいました。長い間憧れていたナローボートの旅もここで終り。

一泊して明日は空港へ。

思い切つて休暇をとり思い切つてのイギリス一人旅。列車から見たどこまでも続く牧草地、小麦畑。



ロンドンで記念写真
右から奥前順 寺田 一郎、寺田 一郎、寺田 一郎

古い車両を大切に使っている列車や地下鉄。その地下鉄の通路や車両は狭いのですが、皆が「ソリー、サンキュー」「ウエルカム」と声をかけて体を入れ替えます。住宅は豪華ではないが、趣のある街の景観を作っていました。ロンドンでもシティ地区を除けば石造りの古いビルが並んでいます。そしてナローボートの超スローライフ。

これらの一つひとつにイギリスの豊かさ、物心両面の豊かさを感じました。イングリッシュガーデンはそういう豊かさによって育まれてきたのでしょうか。

帰国すると、報酬改定に伴う検討作業が最終段階を迎えていました。それにしてもよりの質の高いサービスを提供する事業所に加算する、と言いつつながら基本報酬を減額する政府のやり方のため息がでます。「嫌なら止める、やりたい事業者はいくらでもいるぞ」の声が聞こえてきそうですが、これが市場原理の本性です。

ホレブ寮 改修工事完了

一九八六年に開設されたホレブ寮は、今年で三十二年を迎えます。二〇〇八年の改修工事では、個室十五部屋、二入部屋五部屋（定員二十五名）としましたが、ホレブ寮は自立度に大きな差がある人たちが生活をしているということ、最近では個室希望者が多いことから、第二期改修工事を計画しました。

工事期間は、五月から七月の二か月間とし、もちろん居住されている利用者の生活の場を確保しつつ、空き部屋に順番に移動してもらい、工事が行われました。

一つ目は、二入部屋五部屋の内、四部屋を個室化、二つ目は、二階スタッフステーション



ョンに夜勤者の待機場所を構えられるようにし、三つ目に、老朽化していた正面玄関を自動ドアにして車いすの方も対応しやすくしました。自動ドアについては、利用者が出入りに戸惑わないか不安もありましたが、以前よりスムーズに出入りできるようにになりました。

工事期間中、壁を壊したり、タイルを剥いたりする音は、以前の改修工事ほどではありませんが、かなりの騒音でした。ある利用者からは、「懐かしいですね、エレベーターを作っていた時みたい」と、話が挙がりました。
これからもホレブ寮は、重度・高齢な方にも対応できる施設でいたいのです。次はこの工事かな……。

(武藤)

所内研修

七月十三日の所内研修は、地域公開講座として毎年行っている「先輩PSWに訊く！」でした。

今回講師にお呼びしたのは新潟県の上越基幹相談支援センター・センター長の丸山ひろみさんです。千葉県市川市国府台の国立精神衛生研究所を経て、民間の精神科病院、そして新潟県で精神障害者社会復帰施設「夕映えの郷」の立ち上げと地域生活支援を実践し、現職に至る先輩です。

精神保健福祉の歴史の展開とご自身を重ねて「利用者さんと一緒に地域に出てきたんです」とか、また多くの利用者や個性的な先輩との出会いが、丸山さんの業務の原点に



なっていることなどが話されました。丸山さんの思いや熱意がこれからの若い支援者に継承されていくといいなと感じました。

そんな丸山さんの現在の重点テーマは、スーパージョントピアサポートなのだそうです。基幹相談支援センターを中心にサービスマン等利用計画を基に地域で事例検討を行ったり、ピアサポーターの養成も行っているそうです。

私自身もまさに今、同じ思いで事例検討やピア養成講座に携わっており、丸山さんと十年ぶりの再会でしたが千葉と新潟で離れていても、それぞれが同じ視点や考えに至っていることに驚かされました。

研修会終了後には寺田や県内のPSWも交えて懇親会を行いました。

教科書で精神保健福祉の歴史を学んだ今の若い職員には、先輩PSWのリアルな話はとても刺激になったのではないかと思います。職員の皆がよい影響を受けてそれぞれの業務に取り組んでほしいと期待します。

(山岡)

役員・評議員変更のお知らせ

役員・評議員の一部変更となりましたのでお知らせ致します（新任者は太字で表記）。

任期は理事が二〇一八会計年度に関する定時評議員会最終の時まで。評議員が二〇二〇会計年度に関する定時評議員会最終の時までとなります。よろしくお願い申し上げます。

理事長	寺田 一郎
理事	川名 茂喜
同	三好恵里子
同	大久保夏樹
同	山岡 功平
同	丹澤 正直
同	佐藤 節夫
同	小倉 康敬
評議員	四方田 清
同	柳原 保
同	八角 榮子
同	今井 哲夫
同	世戸 浩司
同	小川 伸子
同	中村美穂子

納涼祭 2018

八月四日(土)に法人の三大行事「納涼祭」を開催しました。天気にも恵まれ、約三百人の参加者の中、盆踊りや抽選会を行い楽しいひと時を過ごすことができました。

今年度の納涼祭は、今までとは違うことをしたいと実行委員で話し合いダンシングヒーローの盆踊りを取り入れました。踊り自体はとても簡単ですが利用者でも楽しめるものにするため職員間で試行錯誤をし、ワーナー流の踊り方を見つけていきました。(なるべく基本に忠実にですが...)その他には二年ぶりに、新人職員によるソーラン節と花火の披露を行いました。新人職員の顔を少しでも利用者・ご家族に覚えてもらうため取り入れて



みましたが新人職員は大変だったようで練習中足が震える、筋肉痛になったと声が上がりました。利用者・ご家族からは、かっこよかった、面白かったという感想が聞けました。

最後に、「一番大事にしよう」と話し合ったのが「提灯」でした。実行委員で「お祭り」のイメージを考えた際に、提灯が一番に思いつきました。各模擬店(六店舗)でオリジナルの作品を作り、店先に飾りました。それぞれの提灯は、風鈴がついていたり、やきそばを食べる提灯と個性のあるものがたくさんあり、少しだけいつもと違うこと、祭りっぽさを出せた納涼祭になったかなと感じるお祭りとなりました。ご協力いただいた方々、ご参加くださった皆様本当にありがとうございます。(相京)

ソフトバレー大会交流戦

六月十八日(月)に、千葉ポートアリーナにて、ソフトバレー交流戦が行われました。

十三チームが参加し、普段行っている六人制のソフトバレーだけでなく、四人制のソフトバレーも行いました。今回の交流戦は、四人制のバレーの周知、チーム同士の交流がメインとなっていました。私達「WANNAS」も四人制・六人制に参加しました。特に、四人制のソフトバレーは、初体験だったため、少しの不安がありました。他のチームから教わったり、教えあったりしたおかげで、楽しみながらゲームを行うことが出来ま



した。また、混合チームとゲームをしたり、職員と利用者と一緒にゲームをしたりすることが出来ました。普段、関わる事が少ないチームと関わりが出来たことだけでなく、事業所を越えて、職員同士が関わりを持つきっかけとなり、交流が深まりました。

今年度は、メンバーだけでなく、職員も変わり、菊池・上中野が新担当になりました。経験者若手が力を合わせながら、ソフトバレーを盛り上げていこうと思っています。ソフトバレーの参加者も随時募集していますので、参加お待ちしています！ (小川)

茂原市緑ヶ丘リレーマラソン

二〇一八年六月三日にワー

ナーホーム職員とご家族で茂原市緑ヶ丘リレーマラソンに参加してきました。ワーナーホームとしては三度目の挑戦となり恒例行事となりつつあります。ホレブから野老課長、相京、上中野、ホレブデイから中村、林、ワークシヨップしらすとから伊藤、厨房から秋葉、柏から大久保施設長と旦那様の敦史さんの以上九名で一週三kmを十四周する四十二、一九五kmの禪りレーを行いました。チームとしての目標は過去の記録を塗り替える事です。

年齢、性別、運動歴等バラバラなので走り終わった後に倒れそうになる人、まだまだ余裕がありそうな人と様々でしたが、気持ちを一つにして三時間二十八分五十八秒というこれまでの中で一番のタイムを記録する事が出来ました。みんなので一つの目標に向かって挑戦する事は、日常業務にも生かせると思います。今後参加しますので、興味ある方は是非一緒に走りましょう。



(林達)



親子パン教室



ページブル録取では、ゴールデンウィークに親子パン教室を開催しました。4月30日のみの開催予定でしたが、事前予約の応募が定員以上となり、5月3日にも開催することとなりました。第1回パン教室には6組16名(内お子様10名)が、第2回パン教室には4組9名(内お子様5名)が参加し、9時~13時頃まで生地のおこねから始め、分割、丸目、成型を行い、醗酵や焼成等の空き時間にはクッキーの形抜きや焼き立てパンの試食を行いました。製造種類は定番商品のあんぱん、クリームパンをはじめ季節の商品桜あんぱんなど、1人5品を2個ずつ製造し、最後にパッキングを行いイベントは終了となりました。今回は地域の方を迎えてのイベントとなり、参加利用者も積極的に成形方法などを教えていました。そしてお子様、保護者の方々が楽しかったと笑顔で帰られていたことが何よりだと感じました。(磯田)

平成30年7月21日(土)に千葉拠点にて、流しそうめん&バーベキュー大会を開催しました!!今年は流しそうめん&バーベキュー大会を合同で行い、全体で約120名近くの参加となりました。

当日は34.0度と暑さの中でアスファルトに水を撒き気温を下げたこと、テントを多く張り日陰を作り暑さ対策を行ったことで体調不良者も少なく無事に行事を行えました。そして今回初の試みで、千葉市ボランティアセンターのホームページでボランティアを募集し、8名のボランティアが参加してくれたこと、流しそうめん&バーベキューを合同で行い大勢の人に楽しんでもらえる工夫をしたことで、たくさんの方が来てくれたと思います。

また地域の方や関係機関からのアンケートで「笑顔と愛にあふれた素晴らしい行事だった。もっと多くの人に来てもらいたい」「とても楽しかった」と多くの声をいただくことができました。こうした一つ一つの繋がりを私たち千葉拠点から発信ができたこと、社会福祉法人ワーナーホームという存在、精神障害者の人たちが身近な地域でどのように生活しているかをたくさんの方の地域住民や関係機関に見て知ってもらえる良い機会になったと思います。これからも私たち職員、利用者が一丸となって地域とのコミュニティを広められる存在になります。(山後)

流しそうめん&バーベキュー大会



千葉拠点イベント報告

わーなー日記誌 《ワークショップ録取》

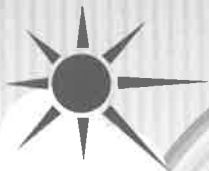
ワークショップ録取は、就労移行支援事業・就労継続支援B型事業を行う施設であり、作業を通じて就職や規則正しい生活を目指す方が利用しています。

作業は、大きく分けて環境整備作業・受注作業・パン作業の三つとなります。環境整備作業は、隣接する下総精神医療センター内の除草作業やワークショップ録取施設管理を行います。受注作業は、パークチー(香味野菜)の選別・袋詰め作業や箸入れ作業等の内職です。そして、パン作業はパン店舗である「ページブル録取」の運営とその商品であるパンの製造になります。この作業の特色は、利用者がパン製造にとどまらず販売や

納品、店舗運営まで関わることができま。

この七月に流しそうめん&BBQという何とも豪華なイベントを炎天下で開催しました。利用者のみならず地域住民との交流を目的とし、当日は子供たちの元気な声や利用者の笑顔が絶えませんでした。特に、最後のスイカ割りではスイカが割れるたびに会場から歓声が上がりました。また利用者の企画・準備の段階から関わり、利用者が発案したアイデアや要望が幾つも盛り込まれました。このようにして地域との交流を深めつつ、利用者の目標実現と幸せのために職員一丸となって支援していきたいと思ひます。(石井)





レクリエーションのご報告

日帰り旅行

ホレブ寮・ノバハイツ白里



七月十二日(木)にホレブ寮・ノバハイツ白里合同で成田国際空港と千葉ヤクルト工場へ日帰り旅行に行ってきました。成田国際空港では、第二ターミナルの展望デッキから飛行機や滑走路を見学し、実際に飛行機が飛び立つところも見ることができました。近くで飛行機を見るのが初めてという利用者も多く、実際の飛行機の大きさに驚きと感動の声が挙がっていました。また、千葉ヤクルト工場の見学時には、毎週土曜日にホレブ寮へヤクルトレディの方が販売に来る事もあり、身近な食品がどのように製造されているかを興味深く聞いていた様子が印象的でした。笑顔多い思い出の一日となりました。(永嶋)

田植えを 行ってきました!

柏拠点



五月四日のみどりの日に柏拠点の各事業所利用者、卒業生、支援スタッフの総勢二十四名で田植え体験を行いました。初めて体験する方も多し、必要物品の準備から当日の昼食メニュー作りを皆で考え、当日は早朝からの昼食作りから始まり、場所を提供していただいた地元農家様からの実技指導、田植え実践を行うことができました。今回の体験は、普段関わる事が少ない利用者・スタッフ・卒業生や外部の方との体験を通じた交流ができたことや、「仕事」としての農作物を育てることはどういうことなのか、「食べる」ことの大切さやありがたみを改めて考えることができた貴重な体験でした。(平嶋)

市原ぞうの国

長生地域生活支援センター



その日は雨の予報。迷った結果、市原ぞうの国決行。手帳ありでも入場料九百円と高く、何度も却下されてきた念願のぞうの国でした。到着して最初に象のショー観覧へ。会場に象使いを乗せた十頭程の象が並び、ショーの数々は異国を思わせ、その光景は圧巻でした。ショーの終わる頃に雨が降り出し、午後は、シヨッピングセンターユニモちはら台へ。「初めて来た」と嬉しそうに散策し、買い物やフードコートで一休みしたりと楽しく過ごせました。利用者からは、「短時間だったが象のショーがよかった」「ユニモには又行きたい」等話があり、初めての体験を楽しみ充実した一日となりました。(比佐)

夏レク

ワークシヨップしらねと



「海の日」という名称がピッタリと当てはまる天気のか鴨川シーワールドに行ってきました。渋滞に巻き込まれる事は無かったものの現地は祝日ということもあり、大変混雑していた昼食をとるのも一苦労でした。シャチのショーでは水しぶきがとても気持ち良さそうに思いましたが濡れる勇気がなく、挑戦した人は五人程度でした。五人はカッパを用意し、前から二列目で観賞しました。混雑を避けてのせわしい日程でしたが参加した利用者は「童心に戻りました」「シャチのショー、遊園地のアトラクションみたいで面白かった」という言葉に職員も癒され、楽しい一日でした。(林美)

ワーナーホーム ワーキング パパ

～ 目指せイクメン～



生活介護・自立訓練(生活訓練)
ホレブ
デイサービスセンター
管理者 主任
松並 秀年
(社会福祉士/精神保健福祉士)
(介護福祉士/介護福祉専門員)

●● 福祉の世界に入ってから ●●

2012年 9月	高齢者施設の生活相談員として入職	2016年 9月	ワーナーホームで福祉施設実習を受ける
2013年 4月	同施設の管理者となる	10月	浅井病院で医療機関実習を受ける
10月	入籍する	11月	介護福祉士実務者研修開始
2014年 2月	結婚式	2017年 1月	精神保健福祉士試験受験
5月	社会福祉士の資格を目指し通信教育開始	3月	実務者研修修了
10月	新居へ引越し		精神保健福祉士試験合格
11月	長男が生まれる	4月	ワーナーホーム入職(ホレブデイサービスセンター生活支援員)
2015年 8月	父親が医療保護入院となる		ウィルス性筋痛症で救急搬送、4日入院
9月	入院中の父親が腎盂腎炎になりICUへ	10月	介護支援専門員試験受験
10月	父親がICUから精神科へ戻る	11月	介護支援専門員試験合格
	長男保育園入園	2018年 1月	介護支援専門員実務研修開始
12月	父親が誤嚥性肺炎で再度ICUへ(気管切開)		介護福祉士試験受験
2016年 1月	父親がICUから精神科に戻り、その後転院して胃ろう造設する	3月	介護福祉士試験合格
	社会福祉士試験受験	4月	ホレブデイサービスセンター管理者・主任となる
2月	父親が転院し、回復期リハビリ病棟へ	5月	介護支援専門員実務研修修了
3月	社会福祉士試験合格	7月	介護支援専門員証が届き、福祉4資格取得完了
5月	精神保健福祉士の資格を目指し通信教育開始		
	父親が自宅へ戻り、看護小規模多機能型居宅介護の利用開始		



やらなくなって30年近く…。自分よりも息子のほうが様になっている気がします。

●● 勤務日朝のお決まりごと ●●

6:30	起床～寝ながらスマホでニュースを見る	7:20	入浴～風呂掃除
6:45	Eテレ えいごであそぼ を子供と見る	7:45	着替えなど
6:55	Eテレ 0655 を子供と見る	7:55	ゴミ捨て
7:00	NHKニュースおはよう日本 を見る	8:05	家を出る
7:05	日経モーニングプラス を見ながら家族で朝食	8:30	出勤

よんきびう隊が好き
この時間は妻と経済の話をしています

毎日風呂掃除をします。掃除担当大臣の仕事です。

私は、繊維、貴金属、飲食店、チェーンなど様々な業界を経験して福祉の世界に入りました。それから福祉は資格が必要だと思いい、社会福祉士を皮切りに四資格を取ることに取り組み始めましたが、その途上で父親が医療保護入院し、さらにICUを二往復する事態が訪れたため、かなりきつい思いをしました。しかしこれがきっかけで少なくとも精神保健福祉士までは絶対合格すると心に決めたのを覚えています。

この決意を支えてくれたのが結婚から二年も経っていませんでした。育休・育短といえ子育ては大変。そんな中でも図書館の利用法を教えてくれたり、資料提供もあつてとても助かりました。妻の両親まで巻き込みましたが、何とかできたことを大変感謝しています。

ワーナーホームに入ったきっかけは、精神保健福祉士の実習です。精神障害に対する専門性と「自己決定の原則」を尊重する姿勢に心打たれました。もともと家族はビククリ、入職すれば、「まさか入るとは思わなかった。」と……。 (笑)

そんな入職から一年、ホレブデイサービスセンターの管理者・主任の辞令にもまたビククリでしたが、職責を全うできるよう頑張りたいと思います。

ホレブデイサービスセンター 茂原方面送迎 始めました

ホレブデイサービスセンターでは、より多くの方に利用して頂く為に、今まで行っていた東金、九十九里地域への送迎に加えて送迎の範囲を拡大し、今年度から長生地域への送迎を開始しました。「心身機能の維持と自己実現を目指すデイサービス」を目標に、来所された利用者がプログラムにて作成・考えた作品などを地域・社会へ発表出来る機会を提供していきます。

また、現在送迎を行っていない地域においてもデイサービス・日中活動の希望に添える方法を考え、職員の柔軟な勤務体制を図り、送迎利用の充実を目指す、事業所にしてまいります。



カトレア会便り

(会長 小川伸子)

カトレア会では、毎年五月に総会を開いて、前年度の活動報告と決算報告、そして、今年度の活動計画と予算について話し合っています。寺田理事長も出席して下さり、ワーカーホームの歩みや試みについての話を賜っています。今年度は、五月十八日(金)、柏市のたんぼぼセンターで行いました。柏拠点、大久保施設長も出席してくださいました。

今年度は役員改選があり、平成三十年六月一日より二年間、会長、小川伸子、理事、伊藤法子、会計、日野大華、監事、大屋祥子と萩原京子で、努めさせて頂くことになりました。よろしくお願い致します。

総会終了後、隣接する「ブルーランジェリーカフェ ページブル」で、ランチをごちそうになりました。ページブルの天然酵母パンは勿論のこと、サラダのドレッシングやジャムも手作りで、とても美味しかったです。こちらのカフェは、川沿いであって眺望がよく、とても素敵でおしゃれな雰囲気、地元の人たちにも

人気のようです。私たちは、このカフェで、大久保施設長も一緒に、美味しいランチをいただきながら、話しが弾みました。

昼食後、昨年十一月に開所されたばかりの地域生活支援拠点、「たんぼぼ」を見学させて頂きました。私は光栄にも昨年十一月の開所式に出席させて頂き、今回は、二度目でしたが、たくさんさんの想いと願いがこめられた素晴らしい建物に、大感動でした。開所式では、柏市長から祝辞を賜り、柏市がワーカーホームの運営に、今も尽力して下さっていることを知りました。

柏市は、一九八一年、寺田理事長が、日本で最初となる精神障害者の自立をめざす社会復帰訓練センターとして、東葛工芸センターを開所された所で、ワーカーホームの原点となった所です。

今年も、平日の開催でしたので、作業をされている利用者様の様子を、間近で見ることができました。ここでは、紙テープを丸めて台紙に張り付けて、葉や飾り、造花など



を製作されていました。手先の器用さが必要な細かい作業だと思えますが、皆様、真剣な表情で、器用に作っておられました。新しい、綺麗な作業所で作業をしておられる利用者様は、誇らしげに見えました。お土産に、この葉とたんぼぼの造花と、ページブルのバターケーキとクッキーを頂いて帰りました。

今回は、場所が東京に近く、また、柏拠点のご家族の皆様が、出席して下さるののではない、新しく仲間が増えることを、役員一同期待して、楽しみにしていたのですが、今年の出席者は、僅か会員七名でした。でも、初めて参加して下さった方が一名いらして、とても嬉しく思いました。

また、カトレア会では、毎年九月に、千葉駅前の「築地日本海」で、家族同士が、悩みなどを語り合っ親睦を深める場として、交流会を開いておられます。

昨年は、会員十二名の出席でしたが、交流会は、今年で六回目となり、皆様、親しくなられて、久しぶりにお会いできるこの機会を楽しみにするようになりました。寺田理事長、職員の三好様、野老様、武藤様も出席して下さい、気さくにお話しして下さい。

このような機会を持つこと、大変ありがたいと、いつも思っています。

ぜひぜひ、五月の総会ともども、交流会に参加されまことを、お勧め致します。

徳川家康の言葉、「人の一生は、重荷を負うて、遠き道を行くがごとし。」ですが、皆様が重い荷物を背負われて、果てしなく遠い道を歩いておられますが、私たちは、一人ではなく、仲間がいます。カトレア会の活動が、重い荷物を、ほんの少しでも軽くすることができたらと思っています。



カトレア会では、社会福祉法人ワーカーホームの家族会で、「①精神障害者の親の悩みは切実なものであり、同じ悩みを持つ者が、慰め合える機会が欲しい ②社会復帰を目指す利用者に対し側面的な協力も考えていかなければならない」(立ち上げ当初の案内文より抜粋)という目的で平成元年にご家族の有志によって立ち上がりました。

総会だけではなく、勉強会、交流会などで家族同士の顔が見える関係、同じ悩みを共有できる機会となっています。交流を通して、情報交換を行い、利用者の今後を考えます。また、ワーカーホームへ要望を出し、利用者が安心して過ごせることを見守り続ける役割も担っています。

大綱だけでなく、柏、千葉、茂原拠点のご家族も参加できます。多くのご家族に参加していただき、より有益な会にしていきたいと思っております。なお、年会費は三千元です。皆様のご入会をお待ちしております。

カトレア会(家族会)
入会のご案内

(武藤)

ワナーホームの主な動き

《五月》

- ・バーベキュー／だいち
- ・バーベキュー／ワークショップしらすと
- ・親子パン教室／ワークショップ鎌取
- ・バーベキュー／長生地域生活支援センター

《六月》

- ・外出レク「トンボ玉を作ろう！」／ワークショップ茂原
- ・ラベンダーマルシェ出店／ワークショップ茂原
- ・就労者ミーティング（交流会）／山武プリオ
- ・講義「相手に伝わるということ」／山武プリオ
- ・レクリエーション「カラオケ」／山武プリオ
- ・余暇プログラム「お店めぐり（フラットビレッジ）」／ペジブル柏
- ・日帰り旅行「千葉市科学館」／フジエール
- ・パラスポーツ体験会／ワークショップしらすと・だいち
- ・外出プログラム「市原ぞうの国・ユニモちはら台」／長生地域生活支援センター
- ・理事会
- ・評議員会

《七月》

- ・ご家族茶話会／たんぽぽゼンター
- ・花火鑑賞／だいち
- ・日帰り旅行／ホレブ寮
- ・流しそうめん・バーベキュー／フジエール・ワークショップ鎌取
- ・夏レク「鴨川シーワールド」／ワークショップしらすと
- ・茂原七夕まつり散策／長生地域生活支援センター
- ・理事会

《八月》

- ・夏レク／だいち
- ・一宮花火大会／長生地域生活支援センター
- ・納涼祭／本部拠点
- ・理事会



イキシア入会のお願い

イキシア会は利用者とそのご家族及び一般有志からなるワナーホームの支援団体です。活動においてご理解をいただき、ご支援・ご協力を賜ります様宜しくお願い致します。

広報イキシアは年三回（一月・五月・九月）発行されます。

〈会費〉
賛助会員 三,〇〇〇円（年）
正会員 一〇,〇〇〇円（年）

編集後記

今年の夏は暑かった……と、毎年言っています。今年も本当に暑かったですね。暑さも関係なく、我が子はたくさん遊んで真っ黒に日焼けしたまま夏休みを終えました。

みなさんどのような暑い夏を乗り越えられましたか？（M）

みんなのまつり
バザー用品募集!!

10月27日(土)に「みんなのまつり」を開催しますので、ご家庭で眠っている品物がありましたら、是非ご提供ください。

発行所 **ワナーホーム
イキシア会**

千葉県大網白里市細草3215

電話 0475-77-2100(代)

URL <http://www.wanahome.or.jp>

発行人 寺田 一郎